・ 藤田 究・宮下武則(香川県農業試験場)・村上優浩(香川県農業経営課)

近年、香川県の麦ほ地において局所的ではあるが、オオスズメノカタビラの発生が問題となっている。オオスズメノカタビラの出穂後は麦よりも長草となるため、激発ほ地においては麦の倒伏を助長したり、収穫作業に支障を来す等、除草対策に苦慮している。そこで、オオスズメノカタビラの発生生態を解明し、その防除法を確立するため、現地の多発生ほ地において防除試験およびポット試験を行ったので、その結果を報告する。

<材料および方法>

1) 現地試験(2001年播種)：香川県綾南町のオオスズメノカタビラ多発生ほ地において麦播種前の茎葉処理剤及び麦播種後の土壌処理剤の除草効果について検討した。11月25日に小麦「チクゴイズミ」を播種した。播種前の茎葉処理剤の散布の有無、2種類の土壌処理剤の散布の有無により、第1表(現地試験)に示すように4区を設け、雑草の発生状況を観察すると共に、発生量を調査した。区の設定は1反復とし、1区につき2ヶ所を調査した。

2) ポット試験(2002年播種)：直径11cmのプラスチック製ポットに乾熱処理した香川農試の水田土壌(砂壤土)をつめ、11月22日に1ポットにつき、小麦「さぬきの夢2000」10粒と前年産のオオスズメノカタビラ種子1gを播種した。播種直後に第1表(ポット試験)に示した5種類の土壌処理剤を散布し、4月8日に発生量を調査した。1区1ポットとし、3反復とした。

<結果および考察>

1) 現地試験：オオスズメノカタビラは多年生雑草であるが、第1図に示すように、水稻作を行う水田内では種子繁殖による1年生雑草の生活型を示した。水稻収穫後に出芽し、10月下旬には2～3葉となっていた。11月上旬には5葉程度となっていたが、11月7日のグリホサートイブプロパリン塩液剤(以下、グリホサート液剤)散布によって枯死した。麦播種後、グリホサート液剤＋土壌処理剤散布区では12月下旬頃から発芽が始まったが、生育は緩慢であった。2月25日の調査では、グリホサート液剤無散布・トリフルリン処理区では無処理区対比で22%の残草が見られたが、グリホサート液剤＋土壌処理剤の体系処理では発生量はきわめて少なかった(第2図)。その後、麦播種前に既発生したオオスズメノカタビラは麦の出穂期とほぼ同時期の4月上旬より出穂が始まり、後次発生したものはやや遅れて4月下旬から出穂が始まった。小麦の出穂期に当たる4月9日及び成熟期に当たる5月28日の調査においても、体系処理区における除草効果は高かった(第3、4図)が、残草したものは出穂して種子を落とした。

2) ポット試験：4月8日に残草量の調査を行った結果、ジフルフェニル・トリフルリン乳剤の除草効果が極めて高く、次いで、トリフルリン乳剤、ベンチカーブ・ペンデメタリン・リニロン細粒剤の効果が高かった。また、ペンデメタリン乳剤の効果はやや劣った(第5図)。

以上のことから、麦ほ地に発生するオオスズメノカタビラの防除は、麦播種前の茎葉処理剤とオオスズメノカタビラに有効な土壌処理剤の除草体系が効果的であることが判明したが、根絶させるには至らず、連年施用する必要があると考えられる。

Fujita, K., T. Miyashita and Y. Murakami : Occurrence and control of *Poa trivialis* L. on wheat fields in Kagawa prefecture

第1表 供試薬剤及び処理時期、処理量

試験区名	供試薬剤名(処理日, 10a当り処理量)
現地試験 (2001年播)	①G+Tr クリホサート41%液剤(11/7,500ml)→トリフルラリン2.5%粒剤(11/26,5kg)
	②G+Di・Tr クリホサート41%液剤(11/7,500ml)→シフルフェニカン0.15%・トリフルラリン2%粒剤(11/26,5kg)
	③Tr トリフルラリン2.5%粒剤(11/26,5kg)
	④Cont. 無除草
ポット試験 (2002年播)	①Tr トリフルラリン44.5%乳剤(11/22,300ml)
	②Pe ヘンティメタリン30%乳剤(11/22,500ml)
	③Di・Tr シフルフェニカン3.7%・トリフルラリン37%乳剤(11/22,250ml)
	④B・P・L ヘンチオカーブ8%・ヘンティメタリン0.8%・リニロン1.2%細粒剤(11/22,5kg)
	⑤IPC IPC45.8%乳剤(11/22,150ml)
	⑥Cont.

注) 現地試験は11月25日小麦を播種、ポット試験は11月22日に小麦、オオスズメノカタビラを播種した。

第1図 無防除及び体系防除した場合のオオスズメノカタビラの生育ステージの比較

第2図 2月25日の雑草発生量(現地試験)

第3図 4月9日の雑草発生量(現地試験)

第4図 5月28日の雑草発生量(現地試験)
(オオスズメノカタビラのみ調査)

第5図 4月8日のオオスズメノカタビラの発生量(ポット試験)

写真 小麦収穫期におけるオオスズメノカタビラ